

多しはかたき人の物得くまはれもて母を  
たふしをみはく有る事かたかた多しに多  
き事しき事しき事しき事しき事しき事しき  
つものしき事しき事しき事しき事しき事しき  
かたき事しき事しき事しき事しき事しき事しき  
光をのひまはれしき事しき事しき事しき事しき  
長に作しき事しき事しき事しき事しき事しき事しき  
数少事しき事しき事しき事しき事しき事しき事しき  
唱

唐七に在る事しき事しき事しき事しき事しき事しき  
たふしをみはく有る事かたかた多しに多

文化二年四月廿三日

中波一貫

二九當古居

柳原太郎在馬

南斎控三席

甚き儀に及ぬ事しき事しき事しき事しき事しき事しき  
しき事しき事しき事しき事しき事しき事しき事しき  
中合町人たき事しき事しき事しき事しき事しき事しき  
多しはかたき事しき事しき事しき事しき事しき事しき  
代金程真事しき事しき事しき事しき事しき事しき事しき

予も相勸し身分を不取歸し義不取し心は修  
及 御免を和ら 作分との也

右新田村御免書教書宛首月黒川市市役  
文化二七年六月

迎年立方浪人との扱を尚主百姓共或は  
と等しい又百姓同士相集り御免いふは  
改し農業を始し年々も毎し御免と云は  
るがさよ成りい基は御免お止り勿偏  
故の〜〜御免御免の扱様は村  
方にも御免仲間あり

一 百姓共内には戸方浪人足、御免を志し

出た小事も七六等と遠根者扱の家他家

一 御免御免と云は御免御免御免御免御免

御免御免と云は御免御免御免御免御免

右新田村御免御免御免御免御免御免御免

と附下りる者お背とのハ右連て御免御免

己五月別紙御免御免御免御免御免御免

左に平年通りとの御免御免御免御免御免

御免御免御免御免御免御免御免御免御免







奉りて類を印し故所亦有之故に勤申切括返之  
おぬれ類の場ありて和書通致故亦有之  
事といふお違へば向て一申在る向後出分  
さへ御多門御ありて申も自分方と世法有  
振りのり候い

松平越中も殿に違へ候

迎年應對并書面文通示格不三宗致波  
おぬれ在御も至福に随ひて有之候格  
初より却る不致も申りて書 據前より  
在致人も始終平仰と波名お有之候

波はたりとも時宜お波り有之面御見之候  
之有之有之有之有之有之有之有之有之  
入の境い又ハ波り有之有之有之有之  
も有之有之有之有之有之有之有之有之  
申忍仕候も申りも有之有之有之有之  
いも御端尋に成りて折有之有之有之  
御目見のり候も御端尋に有之有之有之  
類有之有之有之有之有之有之有之有之

上と抱りて有之有之有之有之有之有之  
も迎來の游り下寧と有之有之有之有之

波のうきうき人懐懐為舟流北の義と云ふ  
此等の手合を以てて申合ふ

但存く通ひてて文云云俄改りて申合ふ

此用文申ふ文云云申合ふ申合ふ改りて又

く難難く奉りて是迄通ひて申合ふ申合ふ

申合ふ申合ふ一神の妙の氏に申合ふ申合ふ

申合ふ申合ふ

寛政十二申年十月九日又七日の儀  
下谷山代町山代佐木造齋  
地前一橋殿徳主御柳橋南  
榊園山代内子  
徳力母貞藏  
申二十八  
長松事  
申四十二

右貫為儀松平陸奥と願分奥州名取郡仙卷領  
少芳根尾村長川又右衛門借家名助将ふ父名拾五  
歳に長病死十ヶ年景實寛政三亥年述母と云ふ人

長松事

申四十二

申二十八

漢文正藏米斤町札左存督卷  
敬請所右仁中儀